

「ふとん海水浴」

登場人物

里美

優子

橋本

女三人の芝居である。

舞台上には布団が二組敷いてある。

物で溢れている印象。

● 1

里美、優子、布団の上でうつぶせになっている。

あたりには、昨日飲んだワインや、グラス、つまみの食べ残しなどが散乱している。

里美　そろそろ起きない？

優子　うーん。

里美　ね、

優子　今、何時？

里美　何時だろ。

優子　十時頃？

里美　たぶん。

優子　そう。

里美　うん。

優子　飲んだねー、

里美　だね。

優子　ちよっと気持ち悪い。べつ？

里美　私？

優子 強いからなあ。
里美 そんなことないよ。
優子 強いよ。昔から、ずーっと。
里美 そうかな。
優子 強い。
里美 そうかも。

間。

里美 高校の時、初めて飲んだ。
優子 そう。
里美 打上げあったでしょ、文化祭か、体育祭の。
優子 え？三年の時？
里美 そう。
優子 やったっけ？
里美 やったよ。山のふもとの誰かの家で。
優子 ふもと？
里美 なんか、お寺の人がいて、
優子 あー、そうだそうだ、思い出した。
里美 あの時、初めて飲んだ。お酒、わたし。
優子 そうなんだ。
里美 そうそう。
優子 ふーん。
里美 面白い。
優子 なに？
里美 なんか。
優子 だから、なにが。
里美 優子がそのとき、なにやってたかなんて、ちっとも覚えてない。
優子 え？どういうこと。
里美 だから、自分のことしか覚えてないってこと。
優子 それって普通でしょ？
里美 そう？
優子 そんなもんよ。
里美 そんなもんか。
優子 他人のことなんていちいち覚えてないよ。
里美 友達でも？

優子 ……うん。友達でも。

間。

優子 だってさ、仲良かったけど、そんなに特別仲良かったわけでもないでもなかったでしょう。

間。

優子 例えば、同じ職場とかでさ、

里美 ……うん。

優子 他人がなにやってるかなんて、気にもしないでしょ。

里美 うん。

優子 だけどさ、その人のこと好きになっちゃうと、今度はその人のことすごく気になるでしょ。

里美 ……

優子 誰と話してるか、どんな服着てるか、席を立った、タバコ吸いに行つた、今こっち見た、今日のデートはどこでなに食べようか、みんなにばれないように、わざと仰々しい敬語使ったりとかするでしょう。それまではその人のことなんて、気にもしなかったから、そうなるとお互いそれまでなにしてたのか、どんな風に付き合っていたのか、考えたりして不思議な気持ちになるでしょう。

里美 やめよ、この話は。

優子 ……

里美 日曜だし。

優子 ……

里美 天気いいし。

優子 ……べつに里美のことじゃないよ。一般論として。

里美 ……私のことだよ。

優子 ……つまり、世界が変わるってこと。それまでと。恋するって。

里美 ……起きない？

優子 起きない。

里美、起きそうもない優子をちよっと迷惑そうに横目に見、片付け始める。ワインやグラスなどと一緒に、その場にそぐわないものもあることに観客は気づくだらう。それは水着や、釣竿や、浮き輪である。

里美 ……やっぱり行こうよ。
優子 もう遅いでしょ。
里美 まだ平気だよ。午前中だし。
優子 混むよ。
里美 そうかな。
優子 行きはそうでもないけど、帰りが。いやだよ、渋滞。
里美 気持ちいいだろうな。
優子 そうかな。
里美 だって、買ったんでしょ、これ。(水着)
優子 まあ。
里美 せっかく買ったのに。
優子 そりゃ、行きたかったんだよ。私だって。
里美 だから行こうよ。今から。
優子 だから、もう遅いでしょ。
里美 遅くないって。
優子 混むでしょ。
里美 いいじゃない。混んでも。私もするし、運転。
優子 任せられないよ。あんたには。
里美 大丈夫だよ。
優子 だって、してないんでしょ、運転。普段。
里美 まっすぐ走るのはできる。
優子 道は曲がってるよ。普通。ウインカー出して、右に曲がったり、縦列
駐車でバックしたり、いろいろしなくちゃならないんだよ。まっすぐ
走るだけじゃ、ダメなの。
里美 でもする、運転。
優子 いいの、しなくて。
里美 したいしたい。
優子 ……勝手にすれば。
里美 電話しなくていいのかな、
優子 え？
里美 レンタカー。
優子 ああ。
里美 ね。
優子 もうキャンセルされてるでしょ。
里美 でもさ、

優子　　してよ、心配なら。

優子、またふとんにうつぶせになる。

里美、浮き輪を膨らます。

優子　　なにやってるの。

里美　　見ればわかるでしょ。

優子　　わかるけど。

里美　　じゃあ、訊かないの。いちいち。

優子　　・・・

里美　　(膨らませる)

優子　　(その様子を見て) 楽しみにしてたんだよ。私だって。

里美　　(膨らませながら優子を無言で見る)

優子　　どんなに楽しみにしてたか。

● 2

里美　　・・・ここは海。

優子　　え？

里美　　大海原(おおうなばら)に浮かぶ船。

優子　　え？

里美　　どこへ行く？

優子　　え？

里美　　南？北？ハワイ？伊豆？

優子　　なにになに。

里美　　私は断然南だな。南。船は南へ進むものなのね。

優子　　どうしちゃったの？

里美　　船長！

優子　　・・・

里美　　船長！

優子　　は、はい。

里美　　向こうのあれは海賊でしょうか。

優子　　(向こうを見るが) さあ。

里美　　海賊だとしたら、まずいです！

優子　　なんで。

里美　　だっていろいろ盗(と)られます。

優子 なにを。

里美 盗られるだけならいいでしょう。もしかしたら、むさくるしい野蛮な飢えた男たちが、私たちの身体（からだ）も奪うかもしれません。

優子 いやー、そういうの。

里美 どうしますか。船長。

優子 じゃあ、変えたら、進路。

里美 なるほど。どちらに。

優子 ・・・右に。

里美 右ですね。

優子 どっちでも。

里美 （ハンドルを右に切る真似）

優子 違うよ。

里美 なにがですか。

優子 そうじゃないよ。帆だよ、帆。

里美 そういう船ですか、これは。

優子 だぶん。

里美、帆のロープを引っ張り、向きを変えようとする。

里美 船長！船長！

優子 なに？

里美 風があ、風が強すぎて、私ひとりでは、無理です！このままでは海賊に捕まって、野蛮な男たちがああああ。

優子 ・・・がんばれ。

里美 手伝ってください！

優子 私？

里美 手伝ってください！

優子 ・・・

里美 早く！早く！

優子、しゅしゅ立ち上がり、二人で見えないロープを引くのだった。

里美 そーれ。

優子 ・・・

里美 そーれ。

優子 ・・・

里美 船長、掛け声は大切です。そーれ。
優子 そーれ。
里美 そーれ。
優子 そーれ。
里美 そーれ。
優子 そーれ。

里美、前方を見て、

里美 やりました！無事に方向が変わりました！やりました、船長！
優子 よくやった。
里美 どうしましょうか。
優子 どうしましょうって。
里美 これから。
優子 ・・・(ちよっと乗ってきて) そうだな、まず、食事にしようか。ちよ
うどお腹も空いてきたところだし。
里美 パンでいいですか。
優子 パンでよし。
里美 かしこまりました！1、2、3、・・・

里美、退場。

優子、ふとんの上の水着を手取る。
服の上から、水着を着る。
変な格好である。
里美、食。パンとマーガリンを持ってくる。

里美 18、19、20！セーフ。
優子 なに？
里美 20カウント以内であれば、濡れずに済むのであります。船長。
優子 なるほど。
里美 なんですか、その格好は。
優子 水着。
里美 それは知っております。水着は服を脱いで着るのではありませんか。
優子 そうだけど、部屋の中で水着って、抵抗ない？
里美 そうでしょうか。
優子 空が広くて、遠くまで見えて、自分はなーんてちっぽけな存在なんだ

ろうって思うから、恥ずかしくないんだよ。部屋の中で水着になれるのは、職業的水着人だけ。

職業的水着人・・・それはどういった人たちなのでありましょうか。

モデルとか、なんとかクイーンとか。

レースクイーン。

そうそう、レースクイーン。

なるほどでございます。はい、船長、パンでございます。

かたじけない。

簡単ではございますが、船の上ではご馳走であります。

そうだな。

あ、なにか、飲み物を。1、2、3、・・・

優子、食。パンを食べる。

里美 14、15、16。

優子 息止めてるの？

里美 (牛乳をグラスに注ぎながら) はい。

優子 なんで。

里美 海の中では、息を止めないと死んでしまいますから。

優子 ・・・そう。

里美 どうぞ。

優子 これはなんだ？

里美 牛乳と呼ばれる飲み物です。

優子 牛乳。

里美 牛の乳でございます。

優子 乳？

里美 そうです。乳です。

優子 乳というのはあれか。ここからピューっと出る液体のことか。

里美 まあ、そうです。

優子 牛のそれか。

里美 はい。乳です。

優子 それを飲むわけか。私たちは。

里美 はい。どうぞ。

優子 ・・・そう、では。(と牛乳を飲む)

里美 どうでしょう。牛の乳の味とやらは。

優子 うまい！うまいぞー！こりゃいけるな！(と、ぐくぐく飲む)

里美 うまいですか！
優子 うまいぞ！

優子、食。パンと牛乳を交互に口に運ぶ。
里美、食。パンに、マーガリンを塗る。

優子 最初にウニ食べた人偉いよね。ナマコとかも、そうだけど。
里美 なんで？

優子 食べられると思わないでしょ、見た目。
里美 まあ。

優子 偉いよな。

里美 昔はまだ食べてないものが多かったんだよ、きっと。
優子 まだあるのかな。

里美 なに？

優子 食べられるもの。こんなの食べるか？ってもので、食べてみると美味しいもの。

里美 蚊とか？

優子 蚊は食べるでしょ。

里美 食べる？

優子 食べるよ。アフリカとかで。観たもん、テレビで。

里美 本当？

優子 本当。

里美 すごいな、

優子 もっと普段私たちが普通に見てるやつでさ、食べるって発想しないもので、なんかない？

里美 うーん。

優子 あるよ、たぶん。なにかしら。

里美 なんたる。食べれるもの。

優子 食べられるね、れるじゃなくて、られる。

里美 食べちゃったよ、「ら」

優子 ・・・なんかかないかな。

里美 考えようか。

優子 考える。

問。

優子 ないな。
里美 え？
優子 全部食べてるよ。私たち。きっと。だって二十一世紀だよ、今。
里美 そうかな。
優子 もうないよ。そんなもの二十一世紀だからね。もう。
里美 なんか、あると思うけどな。
優子 あーあ、もう二十一世紀か。

優子、再び、布団に横になる。

里美 (食パンをくわえながら) 船長？
優子 もうおしまい。
里美 船長。
優子 しつこいな。もうおしまい。
里美 ・ ・ ・
優子 ね。
里美 つまんない。
優子 ・ ・ ・
里美 つまんないよ。
優子 ・ ・ ・暑いよ！
里美 つまんないよ！
優子 片付けでもしな。
里美 (部屋を見渡して) うーん。
優子 明日でしょ、引越し。
里美 うん。
優子 間に合うの？
里美 頼んだから、引越し屋さん。
優子 高いでしょ。
里美 知らない。親が。
優子 へー。
里美 親の都合だから。
優子 意外と冷たいのね。
里美 ・ ・ ・頼んだ？引越し屋さん。
優子 なに？
里美 こっち来る時。
優子 いや。

里美 そうなんだ。

優子 だって、そんなになかったもん。持ってくるもの。

里美 そうなの？

優子 うん。

里美 家具とかは？

優子 置いてきた、実家に。

里美 へー。

優子 あるのよ、備え付けのものが。社宅だからさ。基本的なものは全部。持ってきても狭くなるだけだし、またすぐ向こう帰るし。

里美 そうなの？

優子 たぶん。希望出したって言ってたから、あの人。

里美 そうなんだ。

優子 取り消すか。

里美 なぜ？

優子 ……あんた想像力ないの？

里美 ……もう会わないよ。

優子 ……

里美 もう会わないから。

優子 ……会うよ。

里美 会わないよ。

優子 ……まだ、整理できてないや。

里美 ごめん。

優子 謝るなよ。

里美 ……でも、なんか。

優子 謝るなら、初めからするなよ。

里美 そうだね。

優子 でしょ。

里美 うん。

問。

里美 全部やってくれるのかな。

優子 ……

里美 引越し屋さん。

優子 ……

里美 ねえ。

優子 知らない。
里美 そう。

里美、横になる。
お互いに目を閉じるが、眠れるはずもなく……

● 3

チャイムの音。
しばらくして、もう一度チャイムの音。
里美起き上がり、玄関へ。

橋本 こんにちは。
里美 ああ、どうぞ。
橋本 すいません。
里美 汚いですけど。
橋本 失礼します。

里美、入ってくる。
優子、起き上がる気配もない。
橋本、入ってくる。

ちよつとあまりの散らかりようと、人が寝ているという状況に身体が馴染まないようだ。

里美 どうだった？
橋本 はい？
里美 駅から。
橋本 思ったより、近いですね。
里美 まあ、疲れてると、少し遠い気もするけど。
橋本 でも、コンビニ、すぐそこですね。
里美 それは、すごく便利。

里美、奥の部屋へ。

里美 まあ、どうぞ、適当に座って。
橋本 はい。

橋本、モノをどかして、スペースを作り、正座する。

里美 地図、書くの苦手だから。わかった？

橋本 あ、住所。

里美 そうか、住所でわかるか。

橋本 入り口のプレートにもあったし、住所。

里美 メゾン・ド・ピュール。

橋本 そうです、そのプレートに。住所。

里美 変な名前。

橋本 そうですか？

里美 変だよ。

里美、お盆にお茶を入れて登場。

里美 だいたいなんでフランス語なの。チエック！

橋本 格好悪いからじゃないですか。

里美 そう。

橋本 だって、ピュール荘だと。

里美 それはないよ。

橋本 へ？

里美 大家さん、村松だからさ、それなら村松荘とかさ、コーポ村松とかさ、

橋本 ああ。

里美 どうぞ。

橋本 すいません。

里美 (自分も飲む)

橋本 いつも、こうやって作ってるんですか？麦茶。

里美 うん。

橋本 へー。

里美 え？やらない？

橋本 やりますけど、母が。

里美 ああ。

橋本 私もこれからやらないと。

里美 経済的だからね。

橋本 そうですよ。

里美 ……まあ、適当に見てください。汚いけど。下見に来たわけだし。

橋本 ええ。

里美 いいですから、遠慮なくて。どんどん開けちゃって。開けられるところは全部。

橋本 本当にいいんですか、大家さんとか。

里美 うん、大丈夫。

橋本 そうですか。

里美 別に近所に住んでるわけじゃないから、誰が住んでもわからないよ。

橋本 ええ。

里美 次の更新のときさ、言えばいいよ。だいいち、あの大家に何度も礼金払うのもつたいないよ。不動産屋にもとられるし。

橋本 まあ。

里美 いいの、本当に。

橋本 なにがです？

里美 ちょっと遠いでしょ、会社まで。

橋本 でも、静かなところがいいんで。ちょうどいいです。切り替えも効くし。家ではゆっくりくつろぎたいほうなんです。

里美 そ。

橋本 じゃあちょっと、いいですか。

里美 ああ、どうぞどうぞ。

橋本 すいません。

里美 ああ。

橋本 はい。

里美 気に入らなかつたら、遠慮なく言って。他探すなら、全然それでもいいから、私は。

橋本 あんまりこだわらないんで。

橋本、立ち上がり、奥へ。

里美 ねえ、

優子 . . .

里美 起きてよ。

優子 . . .

里美 寝てないんでしょう？

優子 . . .

里美 お願いだから。

優子 実家で暮らせばいいのに。

里美 ほらやっぱり寝てない。
優子 ねえ。
里美 遠いんだって、なんか千葉の方。
優子 へー。
里美 一人暮らし、したいって。
優子 へー。
里美 布団、あげない？
優子 (また横になる)
里美 ねえ、起きてよー。
優子 (無言)

橋本、やってきて、

橋本 あの、
里美 はい。
橋本 メジャーありますか？
里美 メジャー？
橋本 忘れちゃって。
里美 ああ、計る？
橋本 ええ、入るかなあって、冷蔵庫。
里美 入るんじゃない？
橋本 でも、でかいんですよ。
里美 でかいて、どのくらい。
橋本 母が、新しいの買うから、今のくれるって言って、実家の。
里美 でかいの？
橋本 ええ、かなり。
里美 そんなにたくさん入れるものないよ、一人暮らし。
橋本 ええ、でも、あ、私、お菓子作るの趣味なんで。
里美 へー。
橋本 その、材料とか、いろいろあるし、入れるもの。
里美 わかった、わかった。メジャーだね、メジャー。
橋本 すいません。お手数掛けます。

里美、出て行く。

橋本 え？どこ行くんですか。

里美 コンビニ。
橋本 いいですよ、買うなら、その私行きますから。
里美 いいのいいの、ついでに買うものもあるし。
橋本 いやでも、
里美 すぐだからさ。
橋本 いやでも、

里美、そう言い残し出て行ってしまった。

橋本 ……

● 4

橋本、所在なさげに、する。

優子を見るが、優子は動かない。

橋本、バッグから鏡を取り出し、自分の顔を見る。

気が付くと、優子、橋本を凝視していた。

橋本 !
優子 そんなにびっくりした顔しないでよ。
橋本 ああ、いや、寝てるのかなあとって。
優子 はじめまして。
橋本 あ、橋本です。
優子 会社の？
橋本 ええ、里美さんと同じ。
優子 派遣？
橋本 いえ、私は一応、社員なんですけど。
優子 そう。
橋本 ええ。
優子 ああ、高畑です。
橋本 高畑さん？
優子 なに？
橋本 あ、いや、べつに。
優子 なに？
橋本 いや、会社にもいるんで、高畑さん。
優子 へー。

橋本 関係ないですよね。

優子 男の人？

橋本 あんまりいないでしょ、高畑さん。

優子 高い低いの畑（はたけ）？

橋本 じゃあ、まったく一緒だ。漢字まで。

優子 へー、

橋本 だから、どうだってわけじゃないんですけど。

優子 いや、同じ苗字の人って、親近感わくし。

橋本 ああ、

優子 別の橋本さんに感じませんか？仲間意識っていうか。

橋本 うーん、どうかな、あんまり。

優子 ま、結構いるか、橋本さんは。

橋本 結構いますね。

優子 どんな人？

橋本 え？

優子 その、会社の高畑さん。

橋本 え、ああ、まあ、上司です。

優子 しっかり働いてる？

橋本 え？ああ、まあ。

優子 そう。

橋本 興味、あるんですか。

優子 いやいや、そうじゃないけど。

橋本 素敵な人ですよ。なかなか。ちょっと最近、お腹出てきたみたいですけど。

優子 きっと、あれよ、油っぽいものばかり食べてるからよ。運動もしてないし。若いころは、あんなにスリムだったのにな。

橋本 なんか、知ってる人みたいですね。

優子 いや、ほら、一般的でしょ。多いと思うし。

橋本 まあ、そうですね。男性は。

優子 うん。

橋本 どこまで知ってるのかな・・・

優子 え？なに？

橋本 いや、

優子 なにい。

橋本 いや、里美さんのことなんですけど。

優子 なになに。

橋本 言っ方がいいのかなあ。

優子 言わないから。

橋本 ほんとに言わない？

優子 言わない。

橋本 あの、その、里美さん、実はですねえ、その高畑さんと付き合ってるんですよ。

優子 ……へー。

橋本 不倫。

優子 不倫。

橋本 ええ、不倫。

優子 何で知ってるの。

橋本 見ちゃったんですよ、私。

優子 なにを？

橋本 その、つまり、そういう現場なんですけどね、

優子 へー。

橋本 だってえ、あんなところであんなことしたらダメですよ。やっぱり。

優子 え、どんなこと。

橋本 どんなことって、まあ、ちょっと恥ずかしいんで。

優子 ……みんな知ってるの？会社の人。

橋本 さあ、どうですかね。でも、こーいうのは、隠してるつもりでも、結構わかりますからね。

優子 そうだよな。

橋本 ええ、距離がわざとらしいんです。やっぱり。ふたりの距離が。目に

見えないけど、あるんですよ、きつと。

優子 そうかもね。

橋本 里美さんとは、いつからお知り合いなんですか。

優子、おもむろに、橋本の首をしめる。

橋本 え？ちよつと。

優子 ……

橋本 苦しいです、ちよつと。

優子 ……

橋本 死んじゃう、死んじゃうう

優子 ……ごめんね。

橋本 ちよつと。

里美、コンビニの袋持って登場。

そしてなぜか、ビーチにいるような格好なのである。

里美 なにしてるの？

優子 え？

里美 ちょっと。

優子 なにって？

里美 死んじゃうよ。

優子 なに？

里美 そんなことしたら、死んじゃうよ。

優子 まあ、そうかもね。

しばらく、静観する里美である。

橋本、やがて動かなくなってしまった。

里美、デッキチエアーを持ってきて、座り、雑誌を広げる。

里美 …

優子 音楽欲しいよね。

里美 うん。

優子 (小さなラジカセの再生ボタンを押す)

里美 (その音を聞いて) いいね。

優子 いいでしょ。

里美 うん、いい。

優子 穏やかだねー。

里美 そうだね、

優子 こうやってると、どこにいるかわからない。

里美 だね。

優子 何も見えない、ただ空があるだけ。

里美 空だねー。

優子 オイル塗る？

里美 オイル？

優子 持ってるよ、私。

里美 本当？塗って塗って。

優子 はい。

優子、サンオイルを里美の背中に塗る。
塗りながら、

優子 どこに向かってるんだっけ？

里美 ん？

優子 この船。

里美 南。

優子 南？

里美 でしょ、確か。

優子 そうか、南か。

里美 船は南へ向かうものだから。

優子 そうなんだ。知らなかった。

里美 そうそう。

優子 ふーん。

里美 塗ろうか？

優子 いいの？

里美 いいよ。

里美、Tシャツをめくり、オイルを塗る。

里美 仲いいよね、私たち。

優子 そうかな。

里美 いいと思うよ。

優子 二人しかいないんだから、仲良くしなくちゃ。

里美 そうだね。

優子 もう、戻れないのかな。

里美 どこ？

優子 ん？日本。

里美 ああ。

優子 ね。

里美 いいんじゃない？もう、日本は。

優子 なんて？

里美 だって、いろいろアレでしょ？日本。問題だらけで。

優子 問題はどこにでもあるでしょう？世界中のどこにでも。

里美 そうだけど、でも、あり過ぎるよ。
優子 たとえば？
里美 たとえば？そうだな、たとえば…
優子 なに？
里美 やっぱり、経済？不況のこととか。
優子 関係ないよ、私たちには、不況。
里美 あるよ。不況。
優子 ないよ。だって、不況、感じたことある？
里美 あるよ。
優子 え、どんなとき？
里美 給料前とか。
優子 それ、不況じゃないよ。
里美 そうだけど。
優子 もっと不況ってあれでしょ、にっちもさっちも行かない状態を言うんですよ。自殺したりとか。
里美 ああ、そうか。
優子 …なんか、くだらない。
里美 他に話すことないもん。
優子 まあ。

里美、オイルを塗り終わって、双眼鏡で遠くを見る。

優子 なんか見える？
里美 なにも。
優子 島とか。
里美 見えない。
優子 どこへ行くのかね。
里美 このままでもいいよ。私。
優子 そう？
里美 構わない。
優子 帰らなくていいの？田舎。
里美 それがちょっと気がかりだけど。
優子 待ってるでしょ。
里美 誰が。
優子 誰がって。
里美 お父さん、本当に寂しそうだったんだよ。葬式の時。

優子 そう。

里美 愛してたみたい。お母さんのこと。すごく。

優子 ふーん。

優子、デッキチェアに座る。

里美 (双眼鏡を覗き) なにも見えない。

優子 まあ、のんびりやろう。

里美 うん。

優子 ね。

優子、そのまま寝てしまう。

里美、それを見届けると、ふたたび双眼鏡を覗く。

● 6

橋本、起き上がる。

橋本 あれ？

里美 起きた？

橋本 あれ？

里美 よく寝てた。

橋本 すいません。なんか。

里美 疲れてたのよ、きっと。

橋本 すいません。

里美 はい、これ、メジャー。

橋本 すいません。おいくらですか。

里美 いいのいいの、お金は。

橋本 いや、でも、

里美 いいから、本当に。

橋本 ……

里美 計っていいよ。

橋本 はい。

橋本、里美の身長を測る。

橋本 えーっと、いちメートルごじゅうセンチですね。
里美 あれえ、ごじゅうにあるよー。
橋本 いえ、たしかにごじゅう。
里美 縮んだかな。
橋本 手、広げてください。
里美 手？
橋本 胸囲、測りますから。
里美 (従う)
橋本 (胸囲を測る) えーっと、ななじゅうごかな、
里美 ななじゅうご？そんなことないよ。
橋本 いえ、たしかに。
里美 嫌がらせ？
橋本 そんなことしませんよ。してどうするんですか。
里美 本当に本当？
橋本 本当ですよ。じゃ、次。ウエスト。
里美 いいいい、もいいいいよ。
橋本 いいんですか。
里美 いいよ、落ち込むだけだから。
橋本 そうですかあ。
里美 他のところ測れば。
橋本 例えば？
里美 距離とか。
橋本 距離ですか。
里美 そうそう。
橋本 ・・・じゃこれ。(とメジャーの端を渡す) 持ってください。
里美 (持つ)
橋本 (自分までの距離を測る) いちメートルはちじゅうよん。
里美 なに？
橋本 二人の、距離。
里美 ・・・そ。
橋本 (優子を見て) 起きませんね。
里美 そうだね。
橋本 起きるんでしょうか、いつか。
里美 起きるでしょ。
橋本 そうですか。
里美 次の人来た？私の次の人。

橋本 ああ、この前、一度。紹介してましたよ、里美さんの次の人だって。
里美 そう。
橋本 なんかお嬢様っぽい人でしたね。
里美 ふーん。
橋本 髪、カールしてましたもん。
里美 べつに、だからお嬢様ってことじゃないでしょ。
橋本 もってる雰囲気とか。
里美 そう。
橋本 ええ。
里美 ふーん。

間。

里美 引継ぎ、行かなくていいって言われた。
橋本 へー。
里美 結局、誰にでもできる仕事だったんだよ。
橋本 いやいや。
里美 ……
橋本 寂しいですね。
里美 ん？
橋本 里美さん、いなくなると。
里美 それ、本気？
橋本 ええ。もちろん。
里美 嘘。
橋本 嘘じゃありませんよ。いろいろお世話になったし。
里美 ……嬉しいんじゃないの？本当は。
橋本 いえいえ。

間。

橋本 あの。
里美 なに。
橋本 ちよつと訊いていいですか。
里美 どうぞ。
橋本 なんで、そんな格好してるんですか。
里美 ああ、これ。

橋本 ええ。

里美 あなたこそ、なんでそんな格好してるの。

橋本 おかしいですか。

里美 変よ。場違いというか。

橋本 そうですかね。

里美 ええ。ちよつと異質。

橋本 私はそうは思いませんけど。

里美 だっておかしいでしょう。こんな海の上で、こんな天気の良い日に、

そんな格好してるなんて。

橋本 海の上？ここがですか。

里美 そう。海に浮かぶ船。

橋本 へー。

里美 だから、あなたもほら、もっとリラックスしなさいよ。あなた社員な

んだから。それでも一応。

橋本 まあ。

里美 暑苦しいから。

橋本 向かってるのは、北ですか、それとも南ですか。

里美 あのね、社員なのに、そんなこともわからないの。いい、船は南へ向

かうものよ。覚えておくといいわ。そうやって。いつか役立つことも

あるから。

橋本 例えば、どんなときに？

里美 例えば、そうだな、会議のときとか。空気が重くなったりするでしょ、

煮詰まったり。空気なんて、目に見えるものじゃないのに、なんとな

く重くなったりするでしょ。そんなとき、役に立つから。船は南に向

かっているっていうこと。ただそれを知っているだけで。

橋本 そんなものですか。

里美 ええ。

橋本 覚えておきましょう。船は南に向かっている、ですね。

里美 ・ ・ ・ 降りそうね。

橋本 え？

里美 雨。

橋本 雨ですか。

里美 ほら、見て。空が次第に曇ってきた。

橋本 そうですか。

里美 もの凄い速さね。雲。

橋本 ・ ・ ・

里美 雨、降るわよ。

里美、傘を二本持ってくる。

里美 はい。

橋本 え？

里美 使って。

橋本 は、はい。

やがて、大雨が降ってくる。

里美 ざー、降ってきた！ざーざーざー

橋本 ……

里美 (橋本の目を見て) ざーざーざー

橋本 ざー

里美 ざーざーざー

橋本 ざーざーざー

ふたりでしばらく、「ざー」と言っつ。

里美 凄い雨ね。

橋本 里美さん、

里美 なに？

橋本 私、一度、殺されかけたことあるんですよ。

里美 え？聞こえない？

橋本 私、一度、殺されかけたことあるんですよ。

里美 誰に？

橋本 ええっと。

里美 誰に殺されかけたって？

橋本 それがあ、

里美 なに？

橋本 よくわからないんです。なんで私がそんな目にあっただのかって。

里美 誰でもよかったんじゃない？

橋本 え？

里美 その人、誰かを殺してみたかったのよ、ただ。

橋本 そんなことってあるんですか。

里美 あるんじゃない？

橋本 ありますか。

里美 だって、誰でもいいから、好きになりたかったりするでしょ。人間って。ただ寂しいから、そばにいて欲しいことってあるでしょう。

橋本 それはわかります。でも私、殺されかけたんです。

里美 だから、ほら、もうびしょ濡れ！

橋本 言ってる意味がよくわかりません！

里美 傘、傘。

橋本 だから私、怖かったんです！

雨、急に上がる。

里美 (上空を見て) 見て。

橋本 はい。

里美 行ったね。

橋本 はい？

里美 雨雲。

橋本 ええ。

里美 え、なんだっけ。

橋本 メジャー貸してください。

里美 ああ、はい。(と渡す)

橋本 ありがとうございます。

里美 もういいの？話。

橋本 話？

里美 殺されかけたって話。

橋本 ああ。

里美 怖かったっていう話。

橋本 いいですもう。

里美 そ。

橋本 なんか、急に怖くなくなりました。

里美 いいな。

橋本 そうですか。

里美 私も前はそうだった。なんにも怖くなかった。

橋本 …新潟でしたっけ。ご実家。

里美 ああ、そう。

橋本 新潟かあ。

里美 行ったことある？
橋本 いえ、まだ。
里美 たぶん行かないよ、一生。
橋本 行きますよ、いつか。
里美 遠いよ。
橋本 そうですか？
里美 なんか、こっち来てわかったけど、あるんだ、日本海側って、なんとなく、雰囲気。独特の雰囲気が。
橋本 冬の日本海。
里美 遠いんだよ、すごく。
橋本 どうして帰るんですか。
里美 へ？
橋本 急に。
里美 ダイレクトね。
橋本 すいません。でも、
里美 いいのいいの、話してなかった？
橋本 ええ。
里美 死んじゃったの、お母さん。ついこの間。
橋本 え？ああ、(動揺)
里美 いいのいいの。先週、何日か休んだでしょう。あれ、お葬式よ。帰ってたの。
橋本 なんか、すいません。
里見 大丈夫。覚悟はできてたから。
橋本 そうだったんですか。
里美 うん。
橋本 ……
里美 死んじゃった。
橋本 ……
里美 ずっと帰ってこい、帰ってこい、って言われてて、そのたんび、うるさいなって、電話でね、話してた。おかしいよね、帰ってきなくて言う人がいなくなった途端に、帰ることにしたなんて。
橋本 ……
里美 なんて顔してるの？
橋本 いや、なんか。
里美 あんたが悲しい顔してどうするの。
橋本 ……測ってきていいですか。

里美 うん、測りな。

橋本 冷蔵庫、入らないと困るんで。

里美 でかいんだよね。

橋本 でかいんです。

里美 しばらくゆっくりするよ。向こう帰って。のんびり、何も考えずに。

もともと、東京ってあんまり好きじゃないんだよ。たぶん私。

橋本 測ってきます。

橋本、退場する。

● 7

優子 寝ないの？

里美 だって、もうお昼よ。

優子 そう。少し眠ればいいのに。

里美 ・ ・ ・

優子 彼女は？

里美 測ってる。

優子 ああ、冷蔵庫。

里美 うん。

優子 ずいぶん長いこと測ってるのね。

里美 几帳面なのよ。

優子 ふーん。

里美 たぶん。

優子 腹減った。

里美 さっき食べたでしょう。

優子 違うものがいい。

里美 しょうがないなあ。

里美、釣竿を持ってきて、優子に渡す。

優子 これから？

里美 仕方ないでしょう、引越し前で冷蔵庫になにもないの。

優子 普段からなにも入ってないくせに。

里美 うるさいなあ。

と、里美、釣り糸をたらず。
優子も、同じように釣り糸をたらず。

里美 なにが釣れるかなあ。

優子 初めて、釣り。

里美 へー。

優子 やったことある？

里美 あるよ。

優子 へー、いつ？

里美 いったったかなあ。

優子 海釣り？

里美 釣堀。

優子 なんだあ、釣堀かあ。

里美 釣りは釣りでしょう。

優子 デート？

里美 まあ、そう。

優子 ふーん。

里美 大学のとき。

優子 大学かあ。

里美 なにもやらなかったなあ、結局。大学。

優子 皮肉？

里美 なんで？

優子 私が行ってないから。

里美 なにそれ。

優子 ちよっとした被害妄想だね。

ふたり、背中と背中をくつつけている。

優子 あのさ。

里美 なに。

優子 実はさ。

里美 ん？

優子 私…、人殺したことあるんだ。

里美 ふーん。

優子 驚かないの？

里美 どうやって？

優子 どうやってって？

里美 ナイフ？包丁？それとも首絞めた？

優子 首絞めた。

里美 それまさか、夢オチじゃないよね。

優子 夢、じゃないよ。たぶん。

里美 夢じゃないなら、現実かあ。

優子 たぶんね。

里美 夢と現実の間はないのかなあ。

優子 それいいね。

里美 夢でも現実でもない世界。どんな世界だろうね。

優子 想像できないなあ。

里美 平和かなあ、その世界。

優子 意外と戦争ばかりだったりして。

里美 戦争は、たぶん現実だよ。

優子 なんで？

里美 だって、夢見ることができれば、戦争しないでしょ、たぶん。

優子 そのへんは哲学的な問題だね、あと、解釈の問題も。

里美 難しいんだ。

優子 難しいっていうか。

里美 殺したって話は？

優子 もういい。自分で殺しとくよ、それは。

里美 秘密なの？

優子 うん、そうしとこ。

里美 わかった、秘密ね。ふたりの秘密。

釣竿がググっとしなる。

獲物がかかったようだ。

優子 わ！

里美 かかった？

優子 かかった、かかった！

里美 すごいしなってるよ、竿。

優子 大物だ！

里美 マグロかもよ。

優子 トロ！

里美 鉄火丼！

優子 大トロ！
里美 中トロも好き！

優子 重い！
里美 釣り上げて！ご馳走だよ！

乱雑なものの中から、橋本が登場。

里美 見えた！マグロの背中だ！
優子 暴れてる！

橋本、右往左往。

里美 がんばって。絶対手は離しちゃだめよ。
優子 うーん（と力を込める）
里美 がんばれ！

橋本、暴れるものの、なんとか里美、釣り上げる。
橋本、布団の上で、身体をプルプルさせる。
まるでマグロのようである。

優子 （汗を拭き）ふう。
里美 やった。
優子 すごい達成感だよ。
里美 うん。
優子 これが釣りの面白さなんだね。
里美 マグロ。
優子 マグロか。
里美 ん？マグロ？
優子 そう、マグロ。

間。

優子 どうする？
里美 食べようよ。
優子 さばける？
里美 私？

優子 私、できないよ。
里美 私もできないよ。
優子 手、臭くなるでしょう。
里美 そうだね。
優子 大きいね。こうやって見ると。マグロ。
里美 切り身しか見ないからね、普段。
優子 マグロだ。
里美 立派だねえ。

● 8

橋本、里美と優子の距離を測る。

橋本 にめーとるにじゅうさん。
里美 それって、遠いの、近いの？
橋本 さあ。
優子 冷蔵庫は？
橋本 ええ、なんとか入ります。
優子 幅どれくらい？
橋本 はちじゅうきゆうーセンチ。
里美 冷蔵庫よりあるね。私たち。
優子 いいよ、暑いし。あんまり近すぎるのも、暑苦しいから。
里美 だね。
橋本 あの、
里美 なに？
橋本 これ。
里美 ん？
橋本 さっき、冷蔵庫動かしたら、
里美 ああ。

橋本、お守りのようなものを里美に渡す。

優子 なに？
里美 ん？金毘羅さんの、お守り。
優子 あの金毘羅さん？
里美 そうそう。

優子 ふーん。
橋本 なんか、大切なものじゃありませんか。
里美 ありがとう。
優子 ……
里美 うん、ありがとう。
橋本 明日引越しですよね。
里美 うん。
橋本 平気ですか、片付けとか。
優子 全部引越し屋にやってもらうんだって。
橋本 へー。
優子 便利な世の中だよね。
橋本 じゃ、わたし。
里美 帰る？
橋本 はい。
里美 どうする？
橋本 住みます。ここ。
里美 そう。
橋本 よろしくお願いします。
里美 ねえ、
橋本 はい。
里美 冷蔵庫、やめない？
橋本 はい？
里美 いいですよ、置いてくから。使ってよ。あと、なべとか、食器とかさ
橋本 あ、ラジカセとか、いろいろ置いてく。いい？それとも迷惑？
里美 ありがとうございます。
橋本 日曜なのに、すみませんでした。お邪魔しちゃって。
里美 いえいえ。
橋本 (優子に) じゃあまた。
優子 会うかな？また。
橋本 ああ、え、どうでしょうか、
優子 ねえ。
里美 会うですよ。また。
橋本 そうですか？
里美 高畑さんの奥さん。
橋本 は？

里美 奥さん。
橋本 へー。
優子 バレてるってよ。
里美 なに。
優子 会社で。あなたたちのこと。
里美 そうなの？
橋本 え？ああ、ええ。
里美 そうか。
優子 うん。
橋本 え？ああ、そうなんですか。へー。
優子 まず、帰って、話さないとな。
里美 うん。
優子 これからも、夫をよろしくお願いしますね。橋本さん。
橋本 ええ、ああ。はい。
里美 ……
橋本 じゃあ、また。
優子 さよなら。
橋本 さよなら。

橋本、出て行く。

● 9

優子 それ。
里美 うん。
優子 お母さんがくれたとか？
里美 うん。
優子 そうかあ。
里美 罪だよね、モノって。
優子 なんて？
里美 なくならないでしょう。
優子 捨てられるよ、でも。
里美 ま、そうだけど。
優子 いやなら捨てればいい。
里美 ……
優子 それで終わるよ。

里美 だけど、それは目の前から消えるだけで、どこかにはまだあるでしょう。ずーっと海の上をプカプカしてるでしょう。

優子 でもね、ゆっくりゆっくりさあ、

里美 うん。

優子 消えていくんじゃないかな。

里美 ……

優子 そう思う。

里美 消えて、どこへ行くの？

優子 さあ、どうだろ。きっとあるんだよ。そういうモノが行く場所が。天国とか地獄とか、その仲間みたいな場所がきっと。

里美 そうなのかなあ。

優子 そうだよ。絶対。

優子、布団の上でクロールをする。

優子 泳ごう。せつかくだから。

里美 う、うん。

優子 気持ちいいよー。

里美 うん。

優子、クロール。

里美、一緒になって、ゆっくり泳ぎ出す。

優子 第1コーナーは、日本の新鋭、飯田里美！第2コーナーは、若手成長株の高畑、じゃなくて、栗原！栗原優子。旧姓で出ております。さ

あ、どちらが勝つでしょうか、この勝負！

里美 鋭いバタ足だ！

優子 体格では負けません！

里美 力強い腕の振り！

優子 デットヒートだ。

里美 これは微妙な勝負になりそうだ！

優子 さあ、どちらがオリンピックの切符を手に入れるでしょうか！

ふたり、手をギリギリまで前に伸ばす。

手と手が触れ合っている。

優子 また眠くなってきちゃった。

里美 だね。

優子 帰りたくないなあ。

里美 私も。

優子 でも…帰らなくちゃ。

里美 帰らなくちゃ、私も。

不意に暗転。

幕。